

いっしょに考えよう！ 子育て

株式会社アクセスインターナショナル代表取締役／「FQ JAPAN」発行人
しみずともひろ
清水 朋宏 さん

過渡期を迎える男性の育児参加 誌面でこれからの時代の父親像を追求

「育児を楽しむ」をコンセプトに、国内外の著名人インタビュー、スタイリッシュな育児アイテム、父親としてのワーク・ライフ・バランスなどの育児情報を「オトコ」の視点で提案する情報誌「FQ JAPAN」。自ら9歳の子を育てるイクメンでもある発行人の清水さんに、男性の育児や、それを取り巻く環境について聞いてみました。

育児こそ男女共同 参画が望ましい

「FQ(Fathers Quarter)」は、2003年にイギリスで創刊された雑誌です。妻が見つけて教えてくれたのですが、読んで非常に面白い。「日本版を」と、いろんな出版社に企画を持ち込んだのですが、「読者ターゲットが狭すぎる」「など反応が悪く」「じゃあ自分たちで出そう」ということになり、イギリスの本社とライセンス契約を結びました。そして「FQ JAPAN」として2006年に創刊しました。家族の絆を大切に作る欧米



清水 朋宏 さん

1967年生まれ、東京都出身。地方公務員退職後、数々の職業を経てフリーランスの編集者に転身し、1996年、雑誌制作会社・株式会社アクセスインターナショナルを設立。2003年に第一子をもうけ、実際に子育てを経験したことから「父親の育児」の重要性を感じ、2006年末、自社にて父親向けライフスタイル情報誌「FQ JAPAN」を創刊。

のライフスタイルなど、日々の取材を通じて実感するのは、「育児こそ男女共同参画で行うのが望ましい」ということです。核家族時代の今、母親だけが育児を担うのは、精神的にも、こどもの社会性という観点からもきついなと思います。女性は早めに仕事に復帰し、男性も積極的に育児にかかわる。それにより、地域とつながり、仕事だけでない新しい世界が広がると思います。

自分の趣味を こどもと共に楽しむ

僕自身には、カナダ人の妻との間に9歳の男の子がいます。妻と息子の生活の拠点はカナダで、家族がそろつのは長い休みの時だけ。日々かわれない分、一緒の時は息子との時間をしっかりとつていきます。僕自身が好きなゴルフに始まり、カートやサッカー、キャッチボール。自分の趣味と一緒に楽しむスタンスでかかっています。

国と企業と地域が 一体となつて

「イクメンプロジェクト」が発足されて以来、企業が男性の育児休暇を促進するなど、男性の育児参加の意義が認知されつつあります。でも、実際に育児をとったお父さんが、昼間どこに行けばいいのかわ

かかっています。この点からい

く、男性は、興味のある事をこどもと一緒に始めてみる。好きな事に真剣に取り組む父親の姿はこどもの脳裏に焼き付き、その子が父親になったとき、同じように自分のことにも伝えられます。



「FQ JAPAN」。3・6・9・12月の年4回発売。全国書店の他、主要都市の産婦人科・小児科を中心にダイジェスト版のフリーマガジンも配布。

今年で3回目を迎える「FQ JAPAN」主宰のビッグイベント「イクフェス」。東京ビッグサイトで開催。多数の「イクメン」芸能人が登場し、世界の育児グッズの展示をはじめ無料参加のワークショップなど盛りだくさんの内容。

制度はできたけど、それを受け入れる企業や地域が、この先どう進んでいくかですね。ただ、今、就職氷河期の影響からか、若い人の価値観が「仕事第一」というよりは、「身の丈に合った幸せを満喫する」といった、いわば「イクメン」的発想に変わってきている。そういう意味で、「男性の育児参加」は今、過渡期を迎えていると思います。誌面においても、これからの時代にあるべき父親像を模索しながら、男性が育児を通してどのように自分を見出し、こどもとかわるかを追求していきたいですね。

●株式会社アクセスインターナショナル 渋谷区千駄ヶ谷4-20-1 千駄ヶ谷ビル6F <http://www.fqmagazine.jp/>

区内企業 に見る

ワーク・ライフ・バランスの取り組み

ワーク・ライフ・バランスの実現に向け努力している先進的企業に、制度や取り組みについてお話を伺いました。

株式会社フジクラ



「短時間勤務制度を利用し効率良く働く女性社員は職場にも良い影響を与えています」と話す人事・総務部の森祐起さん。



「今後は高齢者雇用制度の再構築にも取り組んでいきます」と、人事・総務部の太田実那さん。

女性の活躍を継続的に 支援するための取り組み

当社は2005年に創業120年を迎えました。人間という選歴を2回迎えたことになるこの年を「第3の創業」の年と位置づけ、新しい経営理念の中で「一人ひとりが主役として行動し、世界で通用する有能な人材集団になる」とのビジョンを掲げました。

2008年に 育児支援制度を拡充

1992年に育児休業規程を制定し、その後は法改正に伴い改定してきました。そして「男女とも仕事と子育てを両立できる環境を整えよう」と、2008年に法律を上回る制度改定を行いました。

制度の拡充により、男性の 育児休業取得者が3名に

2010年1月には、育児休業制度において、「専業主婦(夫)の除外規定の廃止」「父親の再取得を可能とする」などの拡充を法改正に先んじて行いました。これらもあり、男性の育児取得者が合計3名となりました。同年10月、当社の制度や関連法規をまとめた「育児介護支援ハンドブック」を作成。これらの取り組みにより、2011年6月、「子育てサポート企業」として厚生労働省から「くるみんマーク」の認定を受けました。社員それぞれのライフスタイルに応じたワーク・ライフ・バランスが着実に進んでいます。

育児休業を取得しました



情報・電子営業部 戸田 裕也 さん

第1子の誕生と同時に約1カ月間、育児休業を取得。こどもと一緒の生活を送ることで、育児の大変さ、家庭の大切さを感じることができました。早く送り出してくれた職場の皆様には本当に感謝しています。この経験を、より多くの方に得ていただければ、逆の立場になったときは、率先してサポートしたいと思っています。

●株式会社フジクラ 江東区木場1-5-1 <http://www.fujikura.co.jp/>

●「ワーク・ライフ・バランス」総合サイトを開設／東京都では、ワーク・ライフ・バランスに関する総合的な情報を紹介するWebサイト「TOKYO ワーク・ライフ・バランス」を開設しています。〈URL〉http://www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/index8files/t_wlb/